KIT-CD3000 アナログ録音使用説明書 For CD3000

お手持ちのCD-ROM SAMPLE PLAYER CD3000及びCD3000iモデルにKIT-CD3000を組み込んだ場合は、CD-ROMプレーヤーからのサンプリング以外に、外部音源からアナログ信号の録音が可能になります。

• アナログ録音

アナログ録音は以下の手順で行います。

1. EDIT SAMPLEモードのメインサンプル・セレクトページで、ソフト・キーF2 **REC1** を押し録音セットアップ画面にします。

```
RECORD SET-UP sample name: STRING C4
   mode: MONO         |    *existing Samp*
 (V)iew: LEFT         | bandwidth: 20kHZ
  start: INPUT LEVEL  |orig.pitch: C_4
  Pause: AUTO         |record tim:   1.00s
 (F)ree: 2257360=100% | =    44100=    1%
SLCT REC1 REC2 ED.1 ED.2 ED.3          ANLG
```

この画面にはソフト・キーF8 **ANLG** が新たに追加されました。

この例では、サンプルにSTRING C4という名前を付けてますが、この名前を上書きすることもできますし、もし必要ならば、カーソルをネームフィールド上に移動しネームをスクロールさせて、別のサンプルを選ぶこともできます。

このページには次のフィールドがあります。

mode: ステレオかモノの録音/エディットかを選択します。STEREOを選ぶと、録音後、L, Rのサンプルそれぞれに-L, -Rの文字が自動的に付きます。その後は、特にモノに変更したいのでなければ、ステレオでエディットを行います。

> **注意:** ED.2では、モノラルのエディットのみとなります。ED.1とED.3はステレオエディットができます。

(V)iew: ステレオサンプルをエディットするときに、L, Rどちらのステレオイメージを見たいかを選択します。上記のフィールドでMONOを選ぶと、ここではLEFTしか選べません。'V' は括弧の中に入っています。これは、このフィールドがEDIT SAMPLEモードの他のページではVという省略の形で表示されているからです。

start: 録音をどのように開始するかを選択します。選択肢には次のものがあります。

- INPUT LEVEL - スレショルドレベルを越えたときに録音が始まります。これは初期設定で、ほとんどの場面で使います。スレショルド値の設定はREC2のページで行います。
- MIDI NOTE - MIDIノートを受信すると録音が開始します。シンセからサウンドをサンプルするときに非常に便利です。というのは、サウンドを発音させるMIDIノートオンメッセージが、録音スタートにも使えるからです。

・FOOTSWITCH - フットスイッチを踏んだときに録音が開始するように設定します。両手がふさがっているときに便利です。たとえば、ヘビメタのギターを演奏しながらノイズレベルの大きいアンプからサンプルすることを想像してみてください。スレショルドを使ったレコーディングは役に立ちません。というのは、バックのハムノイズだけでもサンプラーをオンにしてしまうからです。この場合は、フットスイッチが役に立ちます。

pause : このフィールドにはAUTOとMANUALがあります。AUTO(初期設定)を選ぶと、サンプルが作られた時点で録音が終了し、オーディオCDがポーズ状態になります。又、AUTO NAME機能も有効です。

MANUALを選ぶと、録音が終了してもオーディオCDは自動的にポーズになりません。録音中はソフト・キーF8がABORT表示で録音をキャンセルする場合に押します。

詳しくは、CD3000 Ver1.3又は1.5の補遺版マニュアルをご覧ください。

(F)ree このフィールドにはアクセスできません。使用できるメモリー容量を示しています。ここでの表示は、REC1を押すことによって、サンプルポイント表示かミリ秒表示を選ぶことができます。使用できるメモリー容量のパーセントも表示されます。'F'が括弧に入っているのは、EDIT SAMPLEモードの他のページでこのように省略されて表示されているからです。

bandwidth: レコーディングのバンド幅(20kHzか10kHz)を設定します。10kHz(Fs=22.05kHz)だからと言って顔をしかめないでください。このサンプルレートでも非常に優れたレコーディングができます。他のレートではサンプリングはできませんが、必要ならば44.1kHz(つまり20kHz)も可能です。これを後で、たとえば15kHzにリサンプルしてメモリースペースをセーブします。

orig. pitch: サンプルしたいサウンドの基本ピッチを設定します。今はこれについてあまり心配する必要はありません。というのは、REC2ページでも設定でき、必要ならさらにED.2でチューニングし直すこともできるからです。

record tim: 作成するサンプルの長さを設定します。範囲は、使用できるメモリー容量と、サンプルがステレオかモノかによって決まります。これもREC2ページで設定できるので、必ずしもこのフィールドの設定について今すぐに心配する必要はありません。このフィールドを設定すると、下のフィールドに、新しいサンプルに必要とするメモリー容量が表示されます。

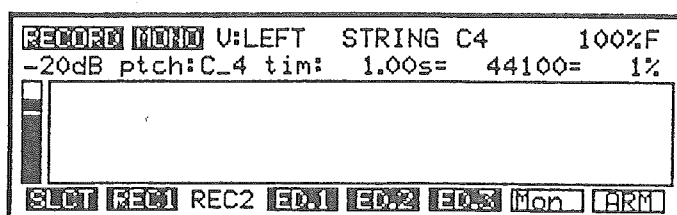
この長さがわからない場合は、必要だと思う長さより長く設定することをおすすめします。後でいつでもサンプルをエディットできるからです。

このページのパラメータを好きなように設定したら、後の作業ではこれらのフィールドについて心配する必要はありません。設定は、何回サンプルを取ってもこのまま保持されます。

2. 新しいソフト・キーF8 ANLG を押すと録音レベルとスレショルド・レベルの調整画面になります。F8 ANLG を押さない場合はCD-ROMプレーヤーからサンプリングする通常のRECORD SET-UP画面のままです。

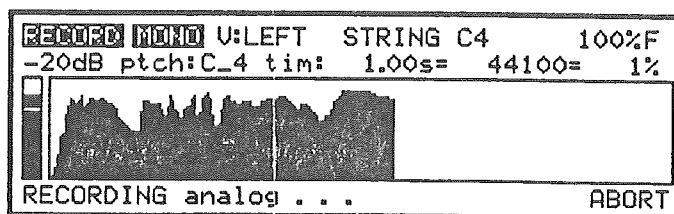
   録音レベルは、リヤパネル上のGAINスイッチ(LOW, MID, HIGH)とREC LEVELコントロール・ノブを調整して行います。

   レベルは、REC2画面上の左にある入力メータができるだけ上まで到達するくらいに調整してください。

   REC1のスタートモードでINPUT LEVELを選んだ場合は、ここでスレショルドレベルを設定する必要があります。ほとんどの場面で使えるように初期設定を選んでありますが、アタックの遅いサウンドなどでは少しクリップするかもしれません。設定は、カーソルを-20dBというフィールドに移動します。音声を入力しながら、その信号をつかまえられるだけ十分低く、かつ、誤って録音がスタートするほど低すぎないようなレベルに調整します。次のような画面が表示されます。

   入力される音声レベルに従って、画面左の小さなレベルメータが上下するのがわかります。スレショルドは、信号がスレショルドの枠にかろうじて入るくらいに設定します。場合によっては、リヤパネルのREC LEVELを使って調整することも必要です。満足のゆくスレショルドレベルが得られたら、さあ、これで録音開始です。

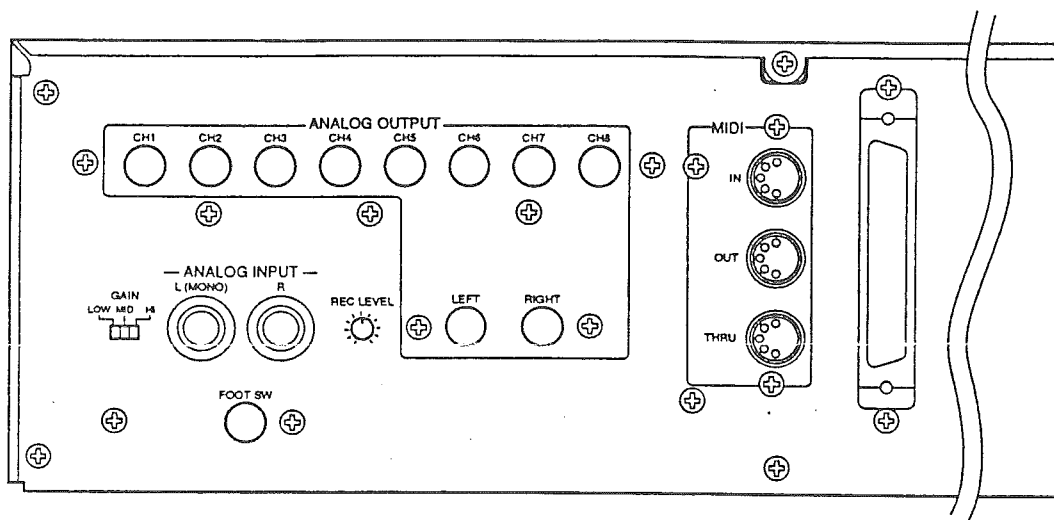
3. CD3000上での録音

   パラメータがすべて正しく設定されたとして、次に必要なのは、ARM を押すことだけです。これを押すと、次のメッセージが表示されます。

   これは、入力信号がスレショルド・レベルを越えていないか、またはスタートタイプがMIDI NOTEになっていてもMIDIノートを受信していないこと、あるいは、スタートタイプがFOOTSWITCHでフットスイッチをまだ踏んでいないことを表しています。GOを押してスタートすることもできます。このメッセージが表示されている時に気が変わった場合(たとえば、このまま録音を続行すると貴重なサンプルを上書きしてしまうことに突然気付いた場合など)、EXITを押すと録音をキャンセルできます。GOを押すと(または他のスタートタイプによる手段で)、次の画面が表示されます。

   画面は録音が進むにつれて、波形で埋まっていきます。F8-ABORTを押すと、いつでも録音が中止されます。これは、録音が中断してそのサンプルはキャンセルされるということです。録音作業中に何かしらミスがあったり、とっておきたいサンプルを上書きしていることがわかった時などに、たいへん便利です。

録音が終了したら、CD3000を通して入力される信号のモニタリングも自動的にオフとなり、キーボードかフロントパネルのENT/PLAYキーを押して、録音したばかりのサンプルを試聴することができます。もう一度モニタリングをオンにするには、[Mon]:メーターONを押します。[Mon]を押すと、そのキーの表示が[Moff]に変わります(つまり、次にこのキーを押すとモニタリングがオフになります)。サンプルをもう一度録りたい場合は、このメーターをオンにする必要はありません。というのは、[ARM]を押せば自動的にオンになるからです。ただし、録音ソースをもう一度聞きたい場合(何かミスがあった時など)、あるいは次のサンプルの設定をしたい場合は、[Mon]を押して、モニタリングをオンにします。

この時点で次のサンプルを作成しようと考えているならば、モニタリングをもう一度オンにしてください。そして、必要に応じて次のサンプル名を付け、新しいベースノートを設定します。(一番簡単なのはキーボードからの入力ですが、この場合はメーターをオンにする必要があります。)[ARM]を押してサンプリングを開始します。

KIT-3000を組み込んだリヤパネルのレイアウト

ANALOG INPUT：　バランス接続式1対のステレオ・フォンジャックです。サンプリング音源がモノラルの場合は、L(MONO)端子を使用します。

GAINスイッチ　：　LOW, MID, HIGHの3つのポジションがあるスライド・スイッチで、サンプリング音源の出力レベルをCD3000の録音レベルに合わせる時に使います。
HI : 58dBm, MID : 38dBm, LOW : 18dBm

REC LEVEL　：　GAINスイッチと合わせてCD3000の録音レベルの微調整に使用します。

FOOT SW　：　ステレオ・フォンジャックを使ってますので、サンプリング・スタート/サスティーン・スイッチ用、もう1つはソフト・スイッチ(MIDIコントローラ67)に使用できます。詳しくは、CD3000のマニュアルをご覧ください。

ANALOG OUTPUT, MIDI端子, SCSIコネクターの仕様はCD3000と同じです。